

狂牛病対策をどう進めるか

風評被害への対応策は



外園憲太郎議員

外園議員 風評被害によって、生産者価格は大幅下落した。生産農家の意欲向上支援対策にどう取り組むのか。

外園憲太郎議員 狂牛病問題に伴う消費者の牛肉離れは深刻で悪い風評が大きな風評被害となって生産者・消費者・関連企業等に強い衝撃を与えた。こうした風評被害に対して本町としてはどのような対策を講じられたか。

消費拡大推進 決起大会で

北村町長 今回の狂牛病発生は、生産者、消費者、流通・加工関係者に大きな不安と衝撃を与え、消費の著しい減退を招いた。本町でも牛肉の安心・安全の危機突破大会や消費拡大キャンペーン等を実施し、風評被害の防止と消費の早期回復に積極的に努力している。

遊休農地対策への

取り組みは

外園議員 最近の農業環境の変化で、遊休農地が急増しているため、害虫の発生源や雑草による人体への影響も心配されているが、その実態の把握は。

農委事務局長 遊休農地は特に生産効率の低い山間部ほど多く、約一〇五・九％である。

投機内でも地元産牛肉消費拡大に協力、三月まで約一、三〇〇kgを購入



地流動化促進事業の

積極的な活動と推進並びに関係者の相互連携・協力等地域ぐるみで取り組み、遊休農地の解消と有効活用に積極的に努力していきたい。

学校週五日制 実施に向けて

外園議員 平成十四年度から新学習指導要領に基づき毎週土曜日を休みとする学校週五日制が実施される。これに伴い、今後授業はどう変わるか。

今後の利活用策は

外園議員 耕作放棄を防止、農地の多面的機能を維持する制度として、町内二七の集落協定が結ばれた。こうした集落協定地区や認定農家・多頭飼育農家の飼料対策として利活用を進めべきかと思うが。

削減される授業時間

福岡教育長 完全実施に伴い、物理的に授業内容は削減される。例えば、小学校六年生で年間一、〇一五時間が九四五時間となる。少なく教えて多くを考える時間を与える「少数多考」の授業内容となる。

農業団体と連携を

町長 遊休地の防止対策は農業団体の共通認識である。農

学力低下の心配は

外園議員 完全実施に伴い、学習カリキュラムは三割削減

される。ゆとりを持って学習できないため、教育内容が十分理解できずに基礎学力の低下の心配はないか。

学力の低下はない

教育長 総合的な学習導入で教科指導を活用して、読み書き・計算等の考える力を養っていくことが教育に課せられた最大の使命である。学力低下しないよう教師の校内研修を徹底していく考えである。

土曜日の活用策は

外園議員 余暇時間を町独自の課外授業活動として町内の名所・旧跡の探訪、農業の体験学習、立地企業等の研修を積極的に進める考えはないか。

チクリン出前講座などの活用を

教育長 最も大きなねらいは、土曜日、日曜日に家庭や地域社会で、自然及び社会体験を通じて、生きる力をつけることである。町内の各施設の開放やチクリン出前講座等の活用を行い、新しい試みとして課外授業の取り組みに努めていきたい。